

会 議 録

会議名	令和7年度 第2回 山陽小野田市文化財審議会
開催日時	令和8年3月11日（水） 午後3時30分から午後5時まで
開催場所	山陽小野田市役所 第2別館 会議室2
出席者	磯部吉秀委員、瀬口哲義委員、田畑直彦委員、土井浩委員、 畠中茂朗委員、山本明史委員
欠席者	なし
事務局	長友義彦（教育長）、山本修一（社会教育課課長）、 三浦 裕（社会教育課課長補佐）、石田由記子（文化財係係長）、 池田順哉（社会教育課）、若山さやか（歴史民俗資料館館長）
会議次第 及び結果	<p>1 教育長あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>（1） 山陽小野田市未指定文化財について</p> <p>事務局から、指定・登録文化財（資料1）の現状及び未指定文化財一覧（資料2）を説明。優先的に調査すべき対象を各委員が3件程度選定して意見を聴取。</p> <p>【主な意見】</p> <p>① 勘場屋敷：高泊開作に関わる歴史的価値が高く、保存・調査の優先度が高い。</p> <p>② 泥濃し場・バック・オロ跡：窯業（陶磁器製造）工程を示す遺構として貴重で、風化する前に保存が必要。</p> <p>③ 旧山口県立厚狭高等学校南校舎 生徒会館：由来・資料が不足しているが、建築史・女子教育史の観点から調査・保存が必要。</p> <p>④ 塩酸吸収塔（日産化学）、旧小野田銀行等についても、産業史上の価値や希少性の観点から調査を求める意見があった。</p> <p>⑤ 「近代化産業遺産群」等の認定は価値付けとして意義はあるが、法的規制や補助が直ちに付与されるものではない旨を確認。</p> <p>意見集約の結果、「勘場屋敷」「泥濃し場・バック・オロ跡」「厚狭高校南校舎生徒会館」の3件を中心に、今後市として調査を進める方針が示された。</p> <p>（2） 勘場屋敷について</p> <p>令和7年度第1回審議会における現地視察結果を踏まえ、現状・保存・活用についての意見交換を実施。</p> <p>【主な意見】</p>

- ・建物の老朽化が進行しており、これ以上傷まないための応急措置、保全を行うことが急務。併せて、現状の再調査（傷みの把握、改変箇所の整理）が必要。
- ・昔の部材を生かした修理、復元の可能性に言及（技術的には対応可能との意見）。一方で、費用面の課題が指摘された。
- ・小学生の見学等があるため、「どこが古く、どこが新しいか」分かりやすい説明書き、模型・図面等の整備が望ましい。
- ・建物の内部公開が難しい現状を踏まえ、絵図を用いたワークショップ、パンフレット作製、HP 掲載など周知・啓発が必要。
- ・高泊開作関連（浜五挺唐樋、高泊神社等）と連動した歴史学習・周遊コース化、地域協力者（保存会的組織）の確保・育成の必要性が挙げられた。

【まとめ】

現時点で建物公開が難しいため、既存資料（調査報告・図面等）を活用した周知・学習への展開方法について、委員の意見を踏まえ、検討を進める。

3 報告

（1）令和7年度 主な文化財事業報告

- ・旧小野田セメント製造株式会社竪窯（国重要文化財）保存活用事業
- ・古式行事 厚狭天満宮奉納（市指定無形民俗文化財）
- ・ウォークイベント「スマイルコースト・ウォーク」との連携
- ・選定保存技術者による手縫藁床講習会

（2）令和7年度 歴史民俗資料館事業報告

- ・企画展を4件実施し、講演会・体験教室・出前講座等を開催
- ・ふるさと文化遺産「コーストウォーク」登録記念として企画展「本山半島の歴史」を開催中（会期：3月24日まで）。展示にQRコードを設け、関連情報へ誘導している。
- ・次年度（4月）に「10分でわかる山陽小野田市の歴史」を実施予定。